

まだ遅くない

葉月一郎

え・小西保文 (題字も)



疑惑

(病院の廊下に、そのにおいは深く沈んでいた。
いらだちを誘う消毒液のにおい、どこか重苦しい血の
におい……。)

それを肩でかきわけるようにして、戸波は病室へ足を運ぶ。

(一家心中せえ、とでもいうのか)

あの判決記事がのった日、支局の一角で眼を血走らせながら叫んだ堂本俊夫の声が、鼓膜によみがえる。

その堂本が死んだ。失業ならまだしも、いのちを失つてしまつたのである。あとに残つた家族たちは、どうし

(あらすじ) 神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄(兵鉄)の公害をなくすため毎朝新聞神戸支局がキャンペーン企画、取材をすすめていた。昭和四十五年秋のことだ。怠惰な日常生活の中で仕事への情熱を失っていた戸波峻記者も石津支局长に誘われて参加する。たまたま醉客にからまれているところを助けやった兵鉄秘書課の細川亞紀子と親しくなり、亞紀子は会社首脳の新聞対策などを戸波に知らせて協力する。

兵鉄の和久井社長らとの会見も実現するが、社長らは高姿勢の答弁を繰り返す。花房総務部長を中心とした新聞社工作をすすめ、広告の掲載もとりやめる。また亞紀子を工場勤務に配置換えする。かつて戸波の書いた記事のために職場を追われた堂本俊夫という男が交通事故に遭う。病室にかけつけた戸波は娘のしのぶは「あなたのせいだ」と激しく責める。その夜、支局長は本社から呼び出しを受けた。戸波や八木沢記者の予想通り、それはキャンペーン記事の掲載中止命令令だ。翌日の緊急部会で、支局長は泉田次長とともに「了解してくれ」と全員を説得する。その席へ、堂本の死が知られた。

て生きる道を選ぶのだろうか。

病室は三階だと聞いた。

その階段を急ぎ足で登りながら戸波はふとわれに還る。

(おれは、一体、なにをしに来たのか)

詫びるため、とはいえない。

それでは、哀悼の意を表するためにか。

いや、そんな、通りいつべんの見舞客で許されるとは思っていない。

さりとて、新聞記者の職業意識とは、全く無縁の行為

である。

病室のドアがみえた。

近寄る。半開きのドアから中の衝立ごしに、ベッドが視線に飛びこむ。

あと片付けをしているらしい看護婦の背後に、堂本の妻がみえた。遺体にすがりついたままの気弱な姿勢が、むき出しになっている。

一瞬、ためらいが心に走った。

どんなおくやみのことはを述べたらいいのか。「どうも」と頭を下げるだけの、なんともしまらない自分自身が脳裏に浮かぶ。
ぐらつき、ためらっているところへ、ひときわ甲高い泣き声が突き刺さった。おそらく堂本の妻のものだろう。（とにかく、ひと通りのおくやみを伝えなくては……）意を決した。

病室へ一步、はいろうとする。そのドアが中から開かれた。

「あつ」

声にならぬ叫びが、洩れた。堂本の娘しのぶ、真赤に泣きはらした瞳が、すぐ鼻先に大写しになつていて、しのぶの方も、不意を衝かれたらしい。

一秒の何分のいか、相手を見さだめる時間があつて、あらためて眼に光がともつた。

（なにしに来たのよ）

視線に、戸波をなじるいろがまじつた。ふとい眉が、意志を持つて動いた。

「このたびは、どうも。なんと申し上げたらいいのか、まことに……」

われながら歯切れ悪く、もごもごとつぶやく。目を伏せ、頭を垂れる。

おのれの屈折した気持を、どう表現したらいいのか。ことばとは、こんなにも「表現力」のないものなのか。判決を待つ被告のような心境で、うつむいた姿勢をつづける。その頬に、突然、激しい平手打ちが飛んだ。

しのぶだった。

唇をかみしめ、力いっぱいの平手打ちである。

頬に、カツと血がのぼつた。だが、不思議に、怒りはない。むしろ、奇妙な快感がそこにあった。なんとはなく、次の判断を待つ姿勢になつた。

しかし、それが最初で、最後だった。

しのぶは、自分自身の体を、まるで使い捨ての雑布のように床に投げ捨てたのだ。

間を置かず、ウオードでもいうような泣き声が、はじけ出た。動物的な、幼児に似た号泣だった。イヤイヤをするように、しのぶは全身をよじつた。

病室内の看護婦が、聞きとがめて出てくる。廊下を通る入院患者たちも足をとめる。好奇の眼差が、二人に集まってきた。

（なんということだ）

逃げ場は、ない。いや、逃げる意志もなかつた。身をさらすことが、一つの服役でもあつた。

前夜、三宮の鍋もの屋で、支局長のつぶやいたことばがよみがえってきた。

（新聞のために殺されたり、傷つけられた人も多い。新報が、むしろ善意でやつた記事のおかげで、な）

それを帳消しにするために、キャンペーンをやるのだ、と支局長はいった。戸波の帳消し行為は、ここに立ちつくして、しのぶの号泣を耳にしつづけ、人々の好奇心の餌になることではないのか。

矢つき早やに、非難のことばを浴びせられる方が、ずっと気が楽かもしれぬ。

だが、戸波は耐えた。

この一家の、針のような非難をうけとめ、のみ干してしまつことが、いま自分に与えられた義務なのだ、と自らにいい聞かせていた。

なぜ、自分はここにいるのだろうか。

その「細川」という表札をさがし当てたとき、戸波は急におのれに問いかけた。

堂本の遺体が眠っている病院を飛び出した戸波の脳裏を、最初にかすめたのは細川亞紀子の面影だった。

住まいは西宮市の、堤町とだけしか聞いていたなかつた。電話番号は知っていたが、電話をかけるだけでは物足りぬ。なんとしても、会いたい。会って、話がしたい……。

(すべて終った)

そう、兵庫製鉄への公害キャンペーーンの、あっけない幕切れ。そして亞紀子との愛のかけひき。堂本の死――。

なにもかもが、限界いっぱいに伸ばしたゴム紐の切れるように、一つずつちぎれてゆく。

宵闇が一段と濃さを増してゆく中で、戸波はひどく孤独であった。

タイムトンネルで、急に一ヵ月前へ引きもどされたような錯覚が、毛穴からしみこんでくる。張りつめた糸がつきつきと切れたあとに残っているのは、あのころの意

惰なこころだけではないのか。

そんな想いに襲われるなかで、亞紀子の白い頬は、まるで溺れるものがつかんだワラともいえた。

(そうだ。彼女とのことは、まだ終っていない)

(会いたい。何でもいい、思い切りぶつつけあおう)

タクシーを拾う。

西宮の行先を告げる。

阪神国道を飛ばしながら、戸波は道に迷った少年のころを思い出していた。

(家がみつかったら、母親の胸にとびこんで、思いきり泣いてやるんだ)

そう心に誓いながら道を捲した思い出。その母の胸に、亞紀子の白い肌が重なる。重なっては甘酸っぱく揺れる……。

家をみつけ出すのに、たっぷり三十分はかかった。武庫川の堤防に近いその住宅地は、意外に近所づきあいも少なく、家探しに慣れた新聞記者の戸波も、手こずらされたのである。



呼鈴を押す。

間をおいて、返事の気配があった。やがて、玄関に現

されたのは、母親らしい中年の婦人だった。

戸波は、名刺を出し、亞紀子の帰宅を確かめた。

「さあ、きょうは多分、こちらへは帰らないと思いますが……」

名刺と戸波とを半分ずつ見比べながら、母親は言葉をにごした。

「こちらへは、といいますと、あのう、今夜は、どこへ……」

「御影の、アパートでしようね」

「アパート、その、アパートというのは……」

「ええ、いつもは、そちらで……。ここへ帰つて参りま

すのは、土曜か、日曜の昼ぐらいですけどねえ」

どういうことなのだ。

アパート住まいとは、聞いたこともない。

玄関の灯を背にしているので、母親の表情は暗くて読みとれぬ。が、嘘をついているような口調ではない……。

「アパートっていうのは、一人すまいで……」

「え？」

随分、へんなことを質問するんですね、といふやうな、とがつた声になつた。

「あのう、あなたは亞紀子とはどういうご関係でしょうか」

「あ、いや、どうも、失礼しました」

取材を通じて知りあつたこと、その後も何かと世話になつていること……かんたんに説明してから、戸波はそ

のアパートの場所や電話を教えてほしいと頼んだ。

「お断わりします」

ビシャリと、叩きつけるような声が返ってきた。

「この夏にも、うつかり教えたばかりに、あの娘が大迷惑したそうで……。もう、どなたにも、しゃべらないつてことに決めておりますの」

「しかし、あのう、私は……」

「特別な関係」にあるといいたい。が、考えてみれば、二人の関係は一体、どう表現すればいいのか。

将来を約束しているわけではない。身体で結ばれた、なまなましい関係ともいえぬ。

「とにかく、娘は、こちらにはおりません。どうか、お引取りください」

ことばづきは丁重だが、玄関を早く閉めてしまいたいというボーッズである。

戸波は、あきらめた。

ひどくむなし、ひからびた胸のなかを持てあましながら、武庫川の堤防へ出た。

肩すかし、と思うのは勝手すぎるかもしれない。裏切りといつてしまふのも早計に過ぎよう。

だけど、このままでは亞紀子さえも信じられないということではないのか。

（住所を教えたために迷惑した）と母親はいった。迷惑とは、どういうことなのだろう。亞紀子の身辺に暗い影のあることを、それは意味しているのではあるまいか。

戸波の記憶は、はじめて亞紀子と出会った夜にさかのほつっていた。

あれは、たしか午前二時ごろだったのではないか。布引のサバーラブで、男たちに囲まれて亞紀子は酒を飲んでいた。

「下請けの人達なんです」と、あとで彼女はいつた。しかし、身内であろうと誰であろうと、大会社の秘書嬢が深夜に酒を飲んでいたことに対し、かすかに興味を覚えた記憶がある。

あのあとも、一見つつしみ深いボーッズの裏側で時折、思わず軽さをのぞかせたのも事実である。

それに、アパート住まいのことを、戸波にまで隠し通そうとしたのは、どう解釈してもフェアではないよう気がする。

もどかしさが襲つた。

なぜか、自分がみじめに思えてならない。

ようやく拾つたタクシーの中で夜氣を払い落とすと、戸波の心は酒場へと走つていた。

ユカのつとめているバーは、東門筋を二筋東へ入ったところにある。

が、ユカはいなかつた。

二日前から休んでいた、と同僚のホステスがいつた。

「ハゲかヒゲと有馬温泉にでも行つてんやろ」と、けたましく笑つた。

ユカのあの暖かい笑顔を、今夜こそ欲しいと思う。

しかし、ユカのアパートまでは行く気が起こらなかつた。行つてみて、いなかつたときのむなしさが戸波にブレーキをかけたともいえる……。

結局、酒に溺れた。ひと月前の、あのザラザラした気持が、満ち潮のように押し寄せてくるのを確かめながら、グラスを重ねた。

それこそ「生まれ変わつた」ような一ヶ月だった。そのなかで、戸波は汗まみれになりながらいくつかのものを得た。

が、得ることの苦しさに比べて、失うことの何という早さ、あっけなさ。

突然、身ぐるみがれて、寒夜の路上に放り出されたような虚脱感が、戸波を包んでいた。

「おい、浮氣するか」

手当り次第に、ホステスに声をかけた。

「バカにしないでよ」

手ひどい拒絕しか返つてこなかつた。実際、どんなに飢えた女でも、今夜の戸波にすり寄つてはこないだろう。それほど彼は荒れていたのである。

気がついたとき、自宅に近い路上にいた。その五毛天神に近い安アパートは、登り坂の細いみちを五十メートルほど上がつたところにある。

ふらつく足をふみしめて、一步ずつゆっくりと歩く。

ほの暗い街灯を受けて、長い影が揺れた。

（ああ、これが、おれのぶざまな姿だ）

怒涛のような自嘲が、足許に押し寄せる。おれの帰りを待つてるのは、古新聞の谷間の、ほこりっぽい覺だけなんだ——。

ヘドを吐きたくなるような自己嫌悪に溺れながら、アパートにたどりつく。

二階へ上がる。

廊下を揺れながら歩く。

ふと、その鼻先に人影が立ちはだかつた。

右へ寄ると、その影も右へ寄る。左へ戻りかけると、左へ——。

「戸波さん」

影が低く叫んだ。

懸命に焦点をしぼつて、その影をみつめる。

細川亜紀子だった。

長い時間をかけて待つっていたのだろうか、寒さのため

に血の気がうせて、いつそう頬が青白くみえた。

「戸波さん」

両手で、戸波の両腕をつかんだ。そのまま全身を揺さぶるようにして身もだえた。

なんといふことだ。

酔いが、音をたてて消えてゆく。

いや、二階の欄も、街灯も、アパート自体まで崩れ落ちて、荒野の中に二人きり……。

それなのに言葉が出ない。

いうことは、訴えたいことは、いっぱいある。なのに、声にならない。

先に、亜紀子の唇が動いた。

（駄目じゃないの、公害キャンペーン、やめたりして。どうして、中止したの。なぜ、やろうとしないの）

（つづく）



すが……。
★卒業式、入学式、とあわただしい
学期となりましたが、春のさわやか
さを一杯感じます。

後編
記集



148

小小小楠貝鴨柏嘉嘉金小小岡牛櫻石石乾砂青朝安
曾比泉林磯本原居井納納井野根崎尾並野野野木奈部
徳芳良憲六健毅正元一真吉正成信豊重正
一夫平吉一玲一玄治彦夫造忠朗一明一彦仁雄隆去

津高陳田玉田田滝滝竹角砂塙新白佐雀坂古後上小
高橋 辺井中宮川川中南田路谷川藤部井林藤林林
和 舜聖 健虎勝清 猛重義秀 昌時喜末英秀
一孟臣子操郎彦二一郁夫民孝雄渥廉忠介忠良二一雄

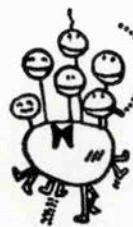
神行元百村光宮宮松福深畑野南難中中西西外竹
戸青吉永崎上田地崎井富水 澤部波西卷脇村木島里
年会哉定辰正顕襄辰高芳惣幸圭 太健準
議所女正雄二郎司二雄男美吉郎三郎遷勝弘親功一郎
吉

★発行にいろいろお世話い
★「いつものやつでいい」と神戸「子」が春を喜んでいました。お供にやつてきましたが、日本にもこんな美しい場があるんですねですか?あるとすればきっと神戸「子」が喜ぶことでしょう。アスコットでないと見えない神戸「子」もあれ洋ちゃんのユニークなニコニコ報告と共にフレッシュです。(東京 石橋) また、さわやかな風があふきロマンの香漂うよう4月ごろにでも歩きたいですね。貴社をのぞきみますので、このコースに加えたいのです。

いたい方がた

★ 「神戸っ子」いつも楽しく拝見させていただいています。きょうは恋しみについていたバック・オウエンス

神戸つ子ごあんない



★月刊神戸。子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達の方へ、編集室までお申込み下さい。さそくお送りします。

小泉美喜子

★さっそくとした阪本勝兵鹿島県知事の隨想と直木賞直後の作家司馬龍太郎先生の説いの「神戸ルポ」と、鶴田浩二監督の脚本と映画が初期「子の」を気賀づけ、人気集中中といふ頃が懐しく思い出されます。新一年号の対談を昨年暮春芭芋亭で集録され、手を振つてお別れをしていただき、手を振つてお別れをさせていただき、それが最後でした。小さなこの雑誌にいふつも心をかけて下さった先生。心よりご冥福をお祈りいたします。

★私、一日編集長デス。NHKで七月から編集長役を致します。袖戸つ子でオツチヨコチヨイの勉強させてもらいます。★今月はベースがないところで……。(井上 久代) 春風邪をひきそろ。という一項のみとは。中村 雅子が散り、いちょうが吹き飛ばされ、ない松の様で私は何の本か? まつ? ありがとう。(かはさき)

神戸子ノ子NO.1
★発行 / 50年5月1日
★編集・発行 / 小泉康夫
★発行所・神戸子ノ子編集室
神戸市生田区東町113の1
大神ビル7階
2 2 4 6 (代)
振替口座 (331)
神戸四五一九九二〇〇
頒価 200

日東館
漢口堂三宮店
文藝館
漢口堂書店
秋田百文館
長田区腕塚町
元町通3丁目
新開地本通
済川商店街
★月刊神戸っ子に広告を掲載できます。
★神戸百店会の事務局は月刊神戸っ子
社編集室内にあります。

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭
神戸市兵庫区旗塚通7-5 TEL 231-6300
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食くれない
三宮生田新道浜町中央
KCBビル2F TEL 331-0494

かっぱう 花くま
神戸市生田区花陽町45
TEL 341-0240

鍋もの・おむすび 悟味西
お茶漬・かはた 神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848
三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび 鮎 ふる里
鍋もの ふる里 神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼たちばな
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田東門筋東会門館ビル1階
TEL 331-7770

カニ料理 婆娑羅(ばさら)
神戸市生田区北長狭通1丁目18
三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F
TEL 321-6363

★西洋料理
レストラン アボロン
神戸市兵庫区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン 肉皮(あらかわ)
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門
神戸市生田区中山手通2丁目98/99
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン セントジョージ
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode

花屋敷
三宮フワーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板グリル

きやんどる
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183

レストラン

キングスアームズ
神戸市兵庫区磯波通4-61
TEL 221-3774

居酒屋 風
れすとらん

井戸のある家
生田新道新紀南
TEL 331-5664

レストラン

ムーンライト
三宮・生田新道
TEL 331-9554

串かつ店

和蘭陀屋
三宮相互タクシー北入
TEL 321-0230

クリル・鉄板焼

月
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE
& STEAK

六段
生田区元町通3丁目
TEL 331-2108

レストラン

スイスシャレー
神戸市生田区北野町3丁目48アニルドマンション1F
TEL 221-4343

レストラン

ハイエイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピッツアハウス

ピノッキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン

フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&
スパゲティ

ガルの店
兵庫区琴緒町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス

グリル青山
神戸市生田区中山手通2丁目12-2
(トアロード)
TEL 391-4858

ピザ・パテオ

神戸市生田区元町通1丁目49(元町1番街)
TEL 331-9378

フ ォー ク
ウ エ ス タ ン

RESTAURANT
& BAR

ゴックスタッド
生田区山本通3丁目18回教寺院前
TEL 242-0131

メキシコ小料理亭

テイファーナ
神戸市生田区中山手通1丁目4-12バールゴーボラスビル1F
TEL 242-0043

ドイツ風
音楽レストラン

コーベ・ローライ
生田区北長狭通6丁目39
TEL 371-0086

★喫茶

宮水の
コーヒーの

にしむら珈琲店
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872-231-9524

センター街店・
神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669

北野店・
山本通2丁目9
TEL 242-2467
(会員制)
3F事務所 TEL 242-1880

喫茶・レストラン

バローナ
神戸三宮サンプラザ地下
TEL 391-1758
トアロード店
TEL 391-1210

喫茶

ガーディニア
神戸市生田区東町113-1 天神ビル1F
TEL 321-5114

珈琲モーツアルト
神戸市生田区山本通2丁目98グランドマンション1F
TEL 241-3961

ティーア
スナック

サボテン
(神戸市生田区中山手通2丁目
(神戸女子短大前) TEL 241-7060

★club

クラブ

飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

club

小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

club

さち
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

ローストシティ

神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

club

なぎさ
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

club

蕗ふき
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

club

ぶ一げん
兵庫生田新道浜側中央KCRビル5F
TEL 331-8593

club

Moon Light
BAR TEL 331-0886-391-2696
Club TEL 331-0157

club

るふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

club

ベルビュードール
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F
TEL 321-5677

club

英国土屋
生田区下山手通2-6 相模タクシー横
TEL 331-1100-331-6600

洋酒ハウス

雑貨屋
生田区下山手通2丁目8の6
(生田新道相模タクシー横上) TEL 321-0260

club

グラムール
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

club

MATSUMOTO
神戸市生田区中山手通1丁目32-3 曽根ビル1F
TEL 241-5470

club

サヴォイ
高架山側 テキの店北
TEL 331-2615

DRINKING IS
AN ART OF LIFE

ウッドハウス
神戸市生田区下山手通1丁目32
PHONE 078-241-7320

club

ビジービー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

club

ボルドー
生田新道浜側中央KCBビルB1F
TEL 331-3575

Wine and
something

珍地理屋
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

club

神戸時代
生田区中山手通1丁目28
シャトワコトブキビル TEL 242-3567

club

くるる実
生田区中山手通1丁目72
TEL 331-6985

洋酒の店

キンティ 北店
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060-391-3010

スープとパン店

スネカジリップ子
神戸市生田区下山手通2丁目
水星ビルB1 TEL 391-8708

Stand&Snack

サントノーレ
生田区下山手通2丁目トアロード
TEL 391-3822

Salon de roulette
パンドラ
ルーレット教室

サントノーレ
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710-221-3886

案内洞でつさん

神戸市生田区北長狭通1丁目258
TEL 331-6778

STAND'マシユケナダ
生田区下山手通2丁目ちいなタウン地下
TEL 331-5587

スナック

GASTRO
神戸市生田区中山手通3-20
トアマンション TEL 231-0723

スタンド

クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329

バスチャーリントン

生田区北長狭通2丁目(トアロード)
TEL 332-1125

スナック

比奈古多
神戸市生田区北野町1丁目143
TEL 241-1306

サロンアルバトロス
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231)3300

スナック

エルソタノ
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

スナック

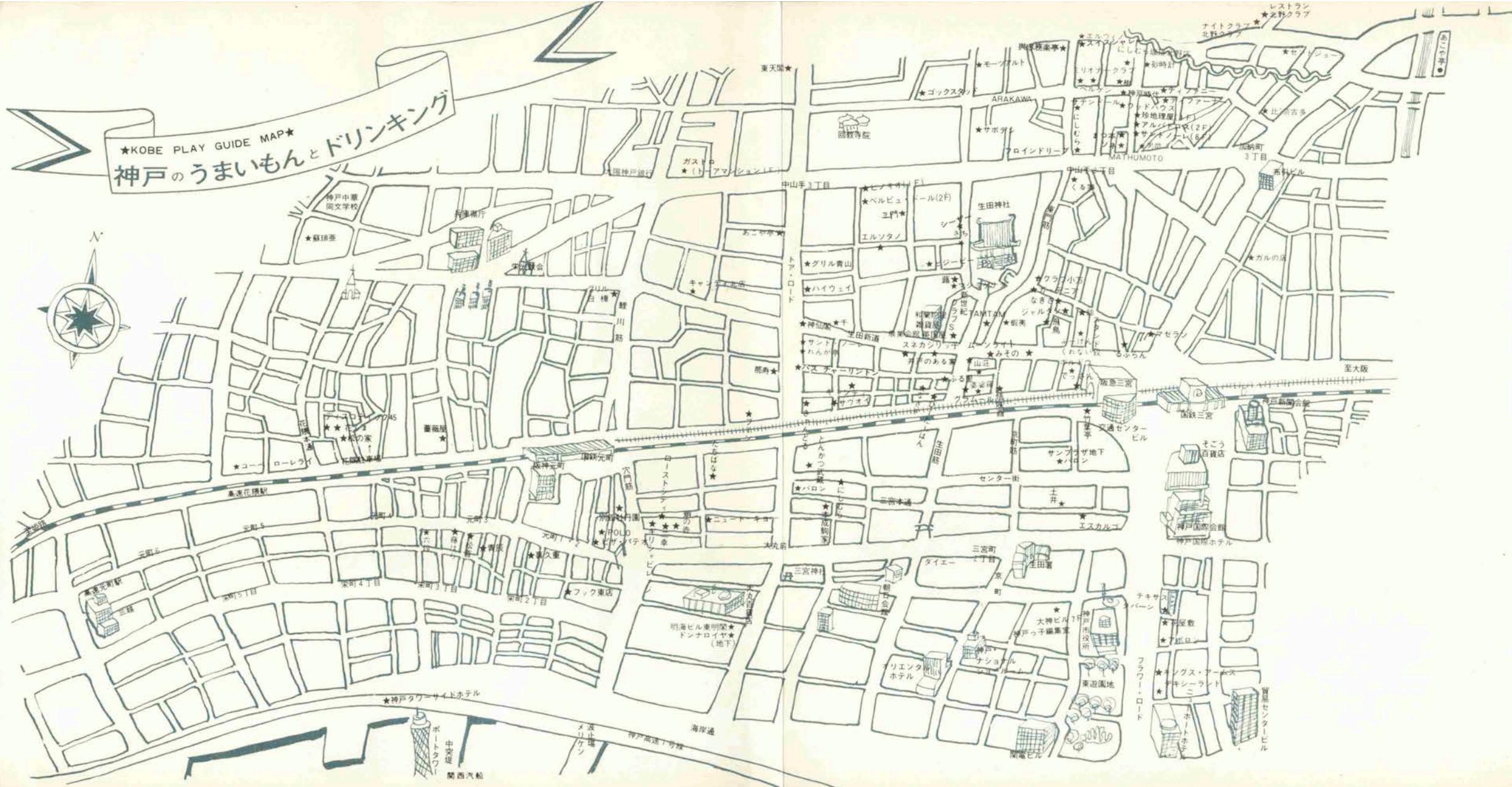
山莊
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823

スタンド

紋
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1レンガ館
TEL 331-8858

スナック

興志務樂亭
神戸市生田区山本通2丁目60バーライフB1
TEL 242-1977





balon antique series

XXVIII

陶器とガラス器

白石 弘子

〈染色家〉

「どこかいびつで それでいてかたちの美しく愛らしいもの そして それぞれが語りかけている そんなものが いつのまにかあつまってしまいました」と語る白石弘子さん。ガラスの器にしろ小さな陶器にしろ何となく形が妙である。そんなかわいい器が、ただただ飾って楽しんでということでなく、実用になっているということが、日常生活を何かアクセントのある粹に楽しむこの人の「生」を表わしている。

トア・ロードバロンにて
カメラ／米田定藏

ハロシ

★英國風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00～PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00～PM 9:00迄

★コーヒーショップ センター街店
TEL 391-1375 AM10:00～PM 9:00迄

ホリナセキ会
 白石洋服店★
 幸洋服店★
 金洋服店★
 ウサミ印房★
 西野生命★
 フラワー★
 シンコ★
 マリキン★
 アーマイキン★
 フラム★
 日本マイ★
 ルクス★
 ユリア理容★
 ギャル★
 ランドフード★
 ケイタフード★
 フラム★
 ホリナセキ会
 阿南洋服★
 クロムス★
 カワムラ★
 ホリ新報

花の妖精が春のやさしさを

婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード TEL 331-6711~3 331-9511~2
東京・銀座 3-2 TEL (03)535-5041



モントモサダ 大和田洋輔★	モントモサダ 大和田洋輔★	モントモサダ 大和田洋輔★

A photograph of a formal Japanese dining room or shop interior. In the center, a mannequin stands in a dark suit. To its left is a framed certificate or diploma. In front of the mannequin is a framed calligraphic inscription. The background features a large arrangement of red flowers and a small shrine or altar area with various items.

紳士服は格調がまず一番

高級お詫び紳士服専門店
テーラーウエタ

トアロード <生田区中山手通3ノ21>
Tel 078(331)2425
新設 (321)2435

山と海をむすぶショッピングの坂道
トアロード





メリケン波止場へ



●モリカワ
★スギヤ
●伊藤文具店
★末横製麺
●宇佐美印房
★ドレミ
●ちから餅

★みよしや
マーキュリー
●伊藤文具店
●本多商店
●ネコスイーツ
●ドレミ
●ちから餅

トーキストア
赤のれん
ミヤムラ
●ドレミ
●ちから餅

KOBOROXICO
●セブン
●アーチ
●モード
●ドリンク
●パロン
●ドン・キホーテ
●神和信用金庫

●日興証券
●SONY
●パウリスター
●モリカワ
●ヒカリ
●美登利屋

セントラル街
合田商店
ハサウエイ
ヤノスポーツ
●モード
●ドン・キ
●モード
●モード
●モード
●モード

不二屋
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード

一富士
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード

至元町
新田山パン
フジリヤ
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード

コロナパン
新田山パン
フジリヤ
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード

コロナパン
新田山パン
フジリヤ
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード
●モード

きのう
わらわ
新田山女堂
新田山女堂
新田山女堂
新田山女堂
新田山女堂
新田山女堂

英国の伝統を受けつぐ



本社
株式
会社

不二屋

本社 生田区三宮町3-5 TEL 391-0535
工場 垂水区多聞町小東山975 TEL 706-5914



山と海をつなぐ坂道トアロード

神戸は背に六甲山脈、前に神戸港がある細長い街だが、その街の縦線がみなそれぞれの顔をもつ坂道たち。このトアロードも、金星台・ビーナスブリッジとバノラマのように広がる神戸の街を一望にのぞめる高台をもつ諏訪山と外国船がゆきかうメリケン波止場をつなぐエキゾチックな雰囲気の漂う坂道なのです。

春風にのってやってきた水色たち

オートクチュール

エスター ニュートン

神戸トアロード TEL 331-1818

大阪阪神 TEL 361-1201



エル・ヴィノ

★ フラメンコの店
生田区北野町3丁目
アニルドマンショーンーF
☎ 242-1344

あなたの心に生まれる充実感。
そんな語りかけのあるジャズの
店。毎週土曜日の夜はピアノト
リオ+女性ヴォーカルが小粋に
スイングする。

毎月第一、三土曜日はフラメンコ
舞踊ショー。水曜休

★ ジャズ
生田区北野町3丁目
アニルドマンショーンーF
☎ 242-12040

あなたの中に生まれる充実感。
そんな語りかけのあるジャズの
店。毎週土曜日の夜はピアノト
リオ+女性ヴォーカルが小粋に
スイングする。

KOBE
ミュージック
HOUSE

ある夜、あなたと私の心の
中に響きあつた音。それが
神戸のサウンドであつた。

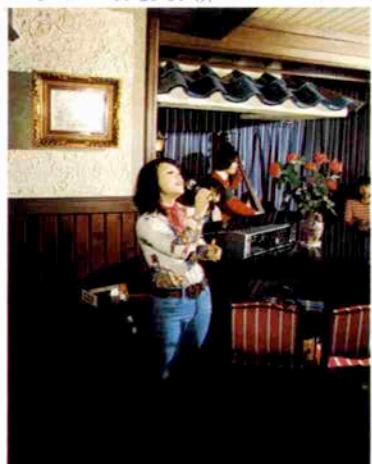


サテンドール

★ フラガ
生田区中山手通1丁目
☎ 242-10100

宮原透トリオの連日の演
奏が聴きもの。(①7..30
②8..40) ③9..30
④11..00 20..30
11..30) 10..30
1..11..00

近々東京の一流ブレイヤ
ーによるゲストタイムも
始まる。



ティファーナー

★ メキシカンレスラン
生田区中山手通1丁目
☎ 242-10043

このメンバーがあなたに捧げる
ラテンの世界。ロー・ソクの炎が
ムードをもりあげ、いつしかあ
なたはメキシコの夜、情熱の夜
へ。



五月八日 新装オープン

クラブ小万のママ岩本起代子さんの二世、文夫さんによつて
スナック“ちくせん”が、ピアノ演奏とドリンクの店として
装いも新たにオープンしました。



スナック ちくせん

神戸市生田区下山手通1丁目85（東門筋）中島ビル4F

☎ 331-3131

近藤正実・岩本文夫



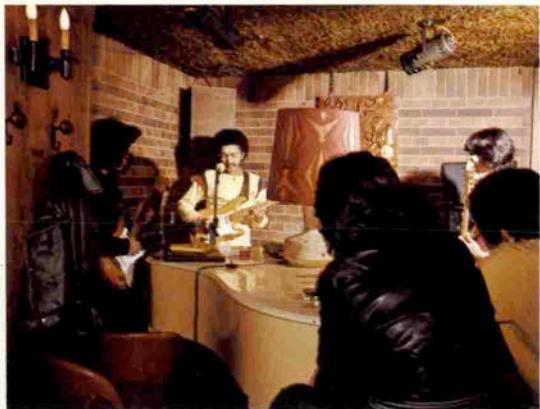


スナック&
ドリンク

姫

生田区中山手通1丁目18

☎ 221-1950



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32

WOODHOUSE

山内ビル

☎ 241-7320

KOBE DRINKING GUIDE



生田区中山手通1丁目

前川ビル1F

☎ 391-3335



英國風サルーン

ジニア

生田区中山手通1丁目105

ホワイトキャッスルビル3F

☎ 321-5577



★可愛いくてステキなママのいる店が“姫”だ。この店の持ち味を言葉でアレコレ説明するのは野暮のようだ。上品なムードももちろんこの店の持ち味の一つだが、それだけじゃない。ある男はいった。酒も女もいろいろと知っている方がいいだろう。店にしてもそうだ。だが、オレはこいつでなきやいけないという酒や女にめぐり会ったとき、無類に嬉しくなるものだ——そして、オレはやっと“姫”という店を見つけたのだ。旅人が路の果てに疲れをいやす、そんなやすらぎがこの店にはあるのだ、と。

☆ボトル(OLD) ¥6,500 ボトル(ホワイトホース、カティーサーク) ¥8,000 水割(OLD) ¥500 ビール¥400

6:00P.M. ~ 0:00A.M. 日曜祭日休み

★歌にうるさいあなたがきっと満足してくれるのを約束する彼。彼の名はチャーリー。甘い声、ハートのこもった歌唱力。なにをとっても魅力的な彼が、あなたの目の前で歌ってくれる時のあの澄んだひとみ。

ボビューラーもいい、ロックもいい、でも、ブルースを歌っている時の彼の顔、声はほんものだ。

5月の“ウッドハウス”。ほんものが聞こえてきます。

今夜さっそく聞いてください。“ウッドハウス”です。

☆営業時間が変わりました。平日／午前8時→午前4時30分、日曜／午後6時→午前12時、年中無休

コーヒー￥150 紅茶￥150 ピラフ￥250 サービスランチ￥300 ピ
ール(小)￥300 水割り(OLD)￥400 フィズ￥500 おつまみ￥100



10

ウッドハウス



ヤマサキ

ジーナ



★本当の食通の人は、生半可な味では納得できず、満足の行く味に出会うまで搜し続けるものです。そんな人でも、ステーキハウス「山崎」の味には、成程とうなづかれています。味が一番大切ですが、落ち着いた雰囲気も「山崎」にはあります。取り揃えているワインを楽しみながらゆっくりと食事ができます。また、あらかじめ予約をしておくと奥のボックス席が利用できます。三十名様ほどのパーティーなどにも最適です。まったく、カキなど季節の料理もあります。家族連れ、友人同士、グループなどの会合にぜひご利用下さい。

☆最上級神戸肉ステーキ￥5,000 サーロインステーキ￥3,000 テンダーロインステーキ￥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き、ピール￥300 ポトル(OLD)￥5,000 ポトル(ホワイトホース)、ポトル(カティサーク)各￥7,000

5:00P.M - 2:00A.M. 日曜日休業

★昨年秋にオープンした“ジーナ”という可愛い名前のお店をご存知ですか。陽気で気さくなママは、もとオフィスレディだったとかで、素人っぽさが魅力。人ととの会話を求めてこの店を開いたとか。店内は明かるく、しかも落ちついたサロン風で、いつも素直なレコード音楽が流れている。粹なバーテンさんのつくる料理も好評で、20代~40代のビジネスマンや自由業の人が多く客層は幅広い。グループの場合はボックス席が利用できるので便利。

☆水割(オールド) ¥450 ビール(小) ¥350 チキンバスケット ¥500
野菜いため ¥500 お茶漬 ¥400 その他、うどん焼、なべ焼うどんなどメニューは豊富

5:30 P.M. ~ 0:30 A.M. 無休